

2020年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471902120	事業の開始年月日	平成15年12月1日
		指定年月日	平成15年12月1日
法人名	特定非営利活動法人福祉ワーカーズコープふれんど		
事業所名	グループホームふれんど		
所在地	( 238-0024 ) 神奈川県横須賀市大矢部3-30-6		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	ユニット
自己評価作成日	令和2年10月1日	評価結果 市町村受理日	令和3年4月2日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/">http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/</a>
----------	---

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アットホームな親だやかでいつも明るい声がとびかっているホーム 間にとらわれず、お一人お一人の訴えやマンツーマンの会話を大切にする 従のナースのもと、医療的な小さなことから医療機関につなげていく機敏な対応 は、ご家族・職員との信頼につながっている	時 専
---	--------

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和2年12月15日	評価機関 評価決定日	令和3年3月24日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、京浜急行線「北久里浜」駅よりバスを利用し、バス停「佐原橋」で下車、徒歩約10分ほどの大矢部小学校に隣接した閑静な住宅地の中にある洋館風の建物です。運営法人は1999年に訪問介護を基本に設立したNPO法人福祉ワーカーズコープふれんどで、法人のサービス利用者からのニーズに答え、2002年に9名定員のグループホーム事業所を開設しています。

<優れている点>

開設時に掲げた理念を変わずに継承しています。職員は、事あるごとに傾聴・共感を基本に、笑顔、学ぶ姿勢、臨機応変について確認と振り返りかえりを行い、入居者との共生の実践につなげています。ホーム長が市のグループホーム連絡会の副会長を務めていることもあり、関係機関と密に連携を図る体制があること、管理者が看護師で健康面の小さなことから迅速に医療につなげる体制があること、職員の平均勤続年数が8年と長く、介護福祉士の有資格者が70%いることから常に入居者の生命と暮らしのため安定した介護の提供に努めていることが窺えます。

<工夫点>

ワーカーズコープの組織体制ということもあり、ホーム長、管理者、職員の区別なくミーティングなどで自由に意見や提案を出し合っています。例えば、入居者の癖を良く観察したことから危険行動の前に回避できるように皆で対応を検討しています。その他、早・遅・日勤帯の業務内容の見直し、シフト時間の変更など職員意見を反映し、改善しています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームふれんど
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			○ 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	きめ細かい観察と、とっさの判断をもってマンツーマンで対応しよう。笑顔、笑顔を忘れずにはいつも言っている。	開設時に掲げた理念を変わずに継承し、玄関、廊下など目に付く場所に掲示をしています。職員は、事あるごとに傾聴・共感を基本に、笑顔、学ぶ姿勢、臨機応変について確認と振り返りかえりを行うことで入居者との共生の実践につなげています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近所の方とは明るく挨拶、ゴミ捨て場の掃除、迷惑をかけないゴミの捨て方に注意する。	今年度は新型コロナウイルス感染症拡大もあり、地域との関わり方に影響が出ています。例年であれば、同法人運営の児童デイサービスの子どもたちとの交流、地域行事参加、事業所行事への招待、ボランティア来訪など地域とのつきあいは盛んです。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ご近所の方から名前は出さないが、電話で相談されることもある。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年は会議があまりなかったため、結びついていない。	今年度4回まで実施した運営推進会議の内、1回は参加メンバーに事前に文書で意見をもらう書面会議形式で行っています。参加者の意見から、家族に手紙や写真を送り、入居者の生活の様子をより知ってもらえるようにしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	今年は会議があまりなかったため、結びついていない。	市の担当者の運営推進会議出席時に、運営報告や実際について知ってもらっています。入居者の担当ケースワーカーと情報共有しながら入居者を支援しています。ホーム長が市のグループホーム連絡会の副会長を務めていることもあり、密に連携を図っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	拘束しなければいけない場合がない為、行っていない。	介護福祉士の資格を持つ職員が7割で、在籍年数も平均8年なので、玄関の施錠を含む、身体拘束をしないケアについて十分に理解し、実践しています。身体拘束廃止委員会については、運営推進会議と併せて開催をしていましたが、開催時間短縮のため、予定通りの開催には至っていません。	今年度は新型コロナウイルス感染症の観点から会議の時間短縮のため、身体拘束廃止委員会の開催に至っていません。コロナ収束後の再開が期待されます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ミーティング時に虐待や拘束の研修を受けているが、まだその場に向かい合っていない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	入居者様にこの制度を使っている方がいるが、その方を通じて学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時はよく納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	今年は新型コロナウイルスの為、ご家族ともお会いできなかった。ホームからは手紙や写真をお送りしている。	家族の来訪が多く、その際に意見や要望を聞いています。ミーティングで検討し、運営に反映しています。今年度は新型コロナウイルス感染症の観点から家族の面会を控えてもらいましたが、入居者の様子が伝わるように手紙や写真を送っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングの場でよく話し合う。	職員からの意見はミーティングで出し合い検討しています。入居者の癖を観察し、危険行動の前に回避できるように皆で話し合っています。その他、早・遅・日勤帯の業務内容の見直し、シフト時間の変更など職員意見を反映し、改善しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者もシフトには入っていないが、毎日現場に出ているので全て把握できている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外での研修も利用したいが、今年は新型コロナウイルスの影響で全部だめになった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	ネットワークでは、グループホームの仲間と勉強会を作り月に1回情報交換や相談会を開いている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に楽しく本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	マンツーマンで笑顔で会話を弾ませたりして楽しく、楽しくを柱にして安心してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居1か月は、度々電話をしてご様子を伝える。皆さん安心される。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	日常生活で今車いすとか、マッサージとか必要なものを見つけすぐ対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	笑顔の会話とやさしい介護、おいしね～の手作りの食事、温かいごはんと汁が強い絆です。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	会話の中にいつも息子の名前を出したり思い出話に花をさかせるように仕向けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	いつもこれを大切に思っているが、今年は新型コロナウイルスで一切ダメでした。	今年度は新型コロナウイルスの拡大の影響で、頻繁にあった家族の面会や旧友の来訪の継続支援が難しくなっています。手紙のやりとりや電話の支援のほか、入居後、理美容のボランティアと築いた馴染みの関係については継続できています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	広いリビング、座席も考えて座っています。話の合う人、怒りっぽい人、色々いるので悩みます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	終了した一か月ぐらいは、連絡もとるがその後は難しい。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	把握はしており、できることは希望通りにしているが、難しい事もある。	入居者一人ひとりと楽しく、なるべく一対一で会話することを心がけているほか、「懐かしのメロディー」「振り返り」「今日は何の日」で本人の記憶の糸口を探っています。引き出した思いや意向はケアプランに反映し、生かしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	その人その人の生活環境を細かく把握する努力をしている。それによってその人のとっている態度に理解を持つことができる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日みているとほぼ理解することができる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアマネから職員に対して細かい事はきくなどして介護計画を作成している。	本人・家族の意向を反映したケアプランの目標は、長期6ヶ月、短期1ヶ月で設定し、モニタリングは通常3ヶ月で行いますが、管理者（ケアマネジャー）も利用者の状況を良く把握し、問題点がある場合は期間にかかわらず随時、見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	一日一日細かく記録しているが、その内容もみな読み取るようになっている。計画の見直しもそれによるものが多い。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	口腔ケアサービス、美容、マッサージ、介護用品、提携医などを利用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	今年は新型コロナウイルスで全て支援なしでした。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	2人の先生にお願いしているが、全幅の信頼をしている。	かかりつけ医は、事業所の提携医（内科および精神科）の往診を月2回利用しています。その他専門医が必要な場合は、職員が通院介助を行っています。管理者が看護師であり、適切な健康管理と医療が受けられる体制を整えています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	20年来の往診で大変信頼している。たった一人の為にでもいつでも頼んで来てくれます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っていますが、今年は新型コロナウイルスでその場はありませんでした。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	行っていますが、今年は新型コロナウイルスでその場はありませんでした。	詳細な事項を記載した「重度化した場合における指針」を用意し、「重度化した場合における申し合わせ書」を交わして入居者や家族の意向を確認しています。必要になった段階で、往診医から家族へ説明し、関係者で話し合っ て方針を決めて支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	専従のナースより、厳しい訓練を受けています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	つけています。	避難訓練のマニュアルを整備し、6ヶ月ごとに避難訓練を実施することとしています。隣接している児童デイサービスと共に避難訓練を行い、消防車や救急車への連絡を共にし、行動するようにしています。災害時用備蓄品をリスト化して管理しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常に注意をしている。	入居者は認知症であり、その症状である「同じことを繰り返したり、独り言の繰り返しを聞いた場合も笑顔で受け入れましょう」と管理者は、職員へ伝えていきます。職員に不適切な対応があった場合は、直接職員と話して意識を喚起しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	常に希望に沿うようにしているが、これだけはダメというものもあり、説明に悩んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員は自分たちの都合優先はほとんどありません。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	いつもおしゃれに気をつけています。着替えたときは「似合う！」と手を叩いています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	お茶碗洗い、テーブル拭き、お盆拭きなどもしてもらっています。	献立は、季節、行事、その日の気候などを考慮し、職員が決めて調理をしています。誕生日には食べたいものを聞き、正月のおせち、彼岸のぼた餅、冬至のかぼちゃ、寿司を食べに行くなど、食事を楽しめるように支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一日の水分摂取量の記録を細かくつけており、一人分、不足なときは心がけて水分をとってもらっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後は必ず歯を磨き、入れ歯は就寝前にはずして一晩消毒をしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	お声掛けは時を構わずしています。	トイレでの排泄を基本として支援しています。排泄記録を活用し、時間ごとや入居者個々の様子と間隔などを見計らって声掛けをし、トイレ誘導しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	個々に応じてそれを記録しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的には決まっていますが、時には希望と状態によって入って頂く場合があります。	入浴は、週2回午後からを基本としています。毎日入りたい意向や拒否が強い場合など、本人の気持ちを考慮しています。個々のシャンプーやボディーシャンプーなどを使い、季節に合わせてゆず湯や菖蒲湯などにして入浴が楽しめるように支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	その時々様子から寝て頂いたり、場を変えたりする。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬が一番神経を使っており、服薬間違いがないかの確認、その後の変化なども確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	レクリエーションの時間、一人一人が自分の出番をもち張り切ることを目的にしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	今年は新型コロナウイルスでできなかった。	新型コロナウイルスで今年度は外出支援が難しくなっていますが、例年、気候や体調に合わせて日常的に事業所周辺、近くの公園、寺社、スーパーなどへ出かけています。また、外食、城ヶ島、葉山海岸などに出かけ、戸外の景色や空気に触れています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的にお金（所持金）はない。特に新型コロナウイルスのため、今年はどこにも行っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙がきたら、読んであげる。電話はお話ができるようにしているが、中々話せないので支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	お花を飾ったり、癒しの和物の写真を貼るなど毎月張り替えて楽しんでいる。	共用空間は、新型コロナウイルスもあり、清掃、消毒、換気には特に気を遣っています。仲の良い入居者同士や一人でくつろげるちょっとしたスペースとして、隣接しているデイサービスの2階が自由に使えます。花を飾ったり、毎月癒しの写真を飾ったりして居心地よく過ごせるようにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファーに行きたくたい人、机に向かってみたい人、お茶を飲みたい人、好きなようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は家族の写真をはったり、バースデーカードを貼るなど楽しく演出している。	居室には危険な物以外、入居者の好みや馴染みの品々を自由に持ち込めます。時間を決めて清掃、換気を行っています。居室担当職員がタンスや押し入れの整頓、洗濯物の入れ替え、おむつの補充などをし、居心地よく暮らせるように支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	残存能力、残像機能も危険が伴わなければ出来る限りやってもらっています。		

2020年度

目標達成計画

事業所名 グループホーム ふれんど

作成日: 令和3年3月29日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	60	コロナの為外出できない為であるか ご入居者を戸外へとと連れ立していない。 暖くならない、早速とり組みました。	1. お花見に連れ立って行きたい。 2. コロナが心配なためなら外食(回転寿司)に行きたい。 3. 週に一度は近人を散歩したい。	1. お花見は「一昨手前」で行ったYRPの光の丘、ぜひ行きたい。(車台、準備)	1ヶ月
2	64 65	コロナの為、全面的に面会を断り していたが、やはりお互いに寂しい。 どうにか生活ぶりなどの実際に見たいと察するので実現したい。	1. ご家族とのご面会を、密を避けるよう注意して実現したい。 2. 運営推進会議のメンバーも入るから、今後のホームのすまい方を考えたい。	1. 面会にいらしゃる方に必ず連絡をいたしたとき、時間差を設けたり、2人以上の人数に抑えるよう「理解」をいただく。	4ヶ月
3	66	コロナ予防の為、マスク消毒は当然ですが、あそびが 仕事休日で遠出や会食など避けるように 職員に指導してきたので、夜間も出さざる 又認知症患者出てあり、頑張り続ける職員いる。	1. 密を恐れずに申し出てミーティングを注意の所子 いらい、職員の見守りや話し合い場所を つく 2. 職員の夜間や患部をゆききり場所と 時をみつ。	1. ミーティングは自由に、言いたいことが言える場だから、4月に入り早目に再開したい。 2. 職員一人ひとりと個人面談をして心にたおま ることをきかしてきたい。	6ヶ月
4	6	身体拘束の委員会並びに取組の会議、 石井修をいかに開けたい。 認知症患者に対して「早急に再開は したい」。	1. 認知が重くなった入居者様にいかに や、大変に思うことをいかに 理解をいかにいかにいかに職員どういかに 学ばせたい。教えることがいかにいかに いかにいかに。	・2つからのグループに分けて、特に重症の 入居者様の介護方法や声かけ方法を 話し合い、その経験をミーティングで発表 する。	6ヶ月
5					ヶ月